

FD 委員会主催「新任教員と中堅・ベテラン教員の FD ワークショップ」

～Project Based Learning(PBL) and 21st Century skills～

開催日 2011 年 12 月 10 日(土) 10:00～14:30

開催場所 西宮キャンパス 701 教室

コーディネーター

ジョーンズ・ブレント教授(マネジメント創造学部)

パーマー・ロジャー講師(マネジメント創造学部)

このワークショップでは、初めに各グループで 21 世紀に必要とされるスキル(21st Century skills)とはどのようなものかを考え、その後、ジョーンズ・ブレント教授(マネジメント創造学部)から 21 世紀に必要とされるスキルを学生に身につけさせる授業方法として PBL(Project Based Learning)が紹介されました。また、ランチタイムを利用して授業公開を実施している学部や教員の取り組みについて事例発表が行われました。様々な学部から新任・中堅・ベテラン教員 18 名が集まり、グループワークなどを通して教員同士の交流が深まりました。



Warm-up activity on 21st Century skills(in teams)

「21 世紀に必要とされるスキルとは？」という課題が与えられ、参加者各自がポストイットに書き込んでいきます。1 グループにつき、数十枚のポストイットが集まりました。次にグループのメンバーで議論をしながらポストイットをホワイトボードに貼り付け、重複しているものや、それぞれのスキルの関連性を意識しながらまとめていきます。各グループで 21 世紀に必要とされるスキルがまとまった後は、他のグループがまとめたものを見て回ります。文系と理系など、研究分野の違いによって必要と考えているスキルが大きく異なることが驚きでした。



Interactive lecture on Project-Based Learning

教育工学が専門のジョーンズ・ブレント教授、PBL を授業で実践しているパーマー・ロジャー講師(共にマネジメント創造学部)のお二人により、PBL(Project Based Learning)の歴史や、授業に PBL を取り入れる際に不可欠な 8 つの要素についてレクチャーが行われました。



Workshop

PBL に対して否定的な意見として、成績評価の難しさが挙げられています。Workshop では、PBL の成績評価の基準を作るために 21 世紀型スキルの中から一つのスキルを選び、スキル習得の達成度をどのように測定し、レベル分けするか考えました。一つの

グループでは、「情報整理力」をとりあげることになり、Emerging レベル・Proficient レベル・Mastery レベルの 3 段階では、どのレベルまで到達していることを求めるかについて議論しました。今回のワークショップではグローバル社会を生き抜いていくために必要な能力として 21 世紀型スキルとはどのような力であるのかを参加者全員で考えました。また、21 世紀型スキルを養成する教育方法として、PBL が紹介されました。今回紹介された教育方法を授業に上手く取り入れ、人とコミュニケーションする力、ICT を使いこなす力、他者とのコラボレーションを通して課題を解決していく力などの 21 世紀型スキルを備えた学生が育つことを願っています。

授業公開についての事例発表&ランチタイム



川田先生:「授業公開ウィーク」とは



山本さん:「Joint Lecture」の紹介

川田都樹子教授(文学部)・石川路子准教授(経済学部)・山本樹さん(経済学部事務室)の 3 名より、授業公開についての事例発表が行われました。川田先生からは、文学部が実施している「授業公開ウィーク」の仕組みや狙いについて発表があり、石川先生からは地域の方々など、甲南大学の学生以外も受講が可能となっている「地

域活性化システム論」の紹介や、今後の展望について発表がありました。山本さんからは、経済学部の看板授業となっており、You Tube でも公開されている「Joint Lecture」について授業の意図や効果の説明がありました。ランチタイムには、学部間の壁を越えた教員同士の情報交換が行われ、教育・授業の悩みの共有や新たな視点での解決策が和気あいあいとした雰囲気の中話し合われました。



石川先生:「地域活性化システム論」の紹介



ランチタイム